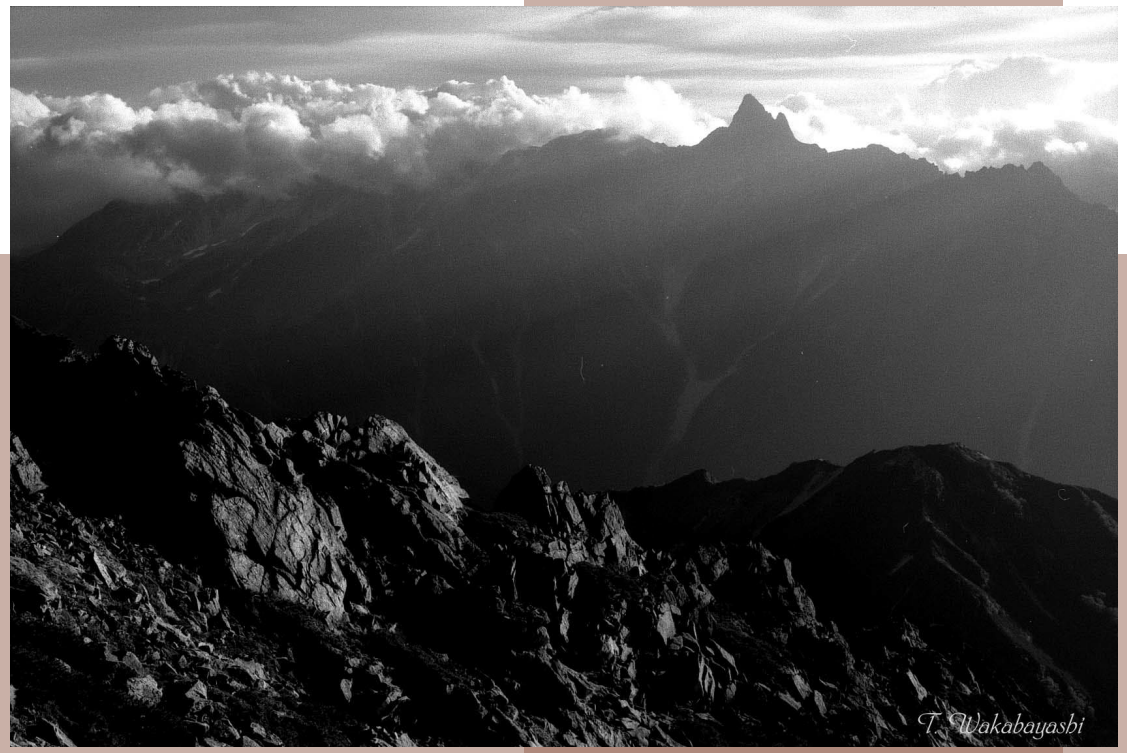
9. 山岳に関する寄贈資料

大学史資料センターに寄贈された資料から、
山岳に関連するものをご紹介します。



展示資料No.k１

信州大学医学部 山岳部診療所 活動報告書

信州大学医学部山岳部
1986（昭和61）・1993（平成5）・1999（平成11）
2000（平成12）・2010（平成22）

大学史資料センター 蔵

常念診療所は1986（昭和61）年に医学部によって開設され、北アルプス常念小屋の冬季小屋を利用し、毎年7月中旬から8月中旬までの約1か月間開所しています。医学部山岳部の学生が運営主体となって行うユニークな夏期山岳診療所です。ボランティアの医師・看護師の人事、医薬品・生活用品の調達・管理、広報、開所・閉所作業、診療案内・補助等をすべて学生が担っています。

報告書には、診療活動従事者の内訳や日程表、症例や動向などがまとめられています。昭和61年度報告書内の「山岳診療所事始め」では、医学部山岳部顧問であった寺脇良郎氏が、開所の経緯について、学生たちの熱意に動かされたことや、常念小屋経営者の山田恒男氏からの施設提供の申し出があったことなどを書いています。

医学部卒業生 寄贈

展示資料No.k2

ピッケル
“ウィリッシュ”

ROMAN.WILLISCH
SCHWEIZ TASCH/ZERMATT
SWISS MADE H85

大学史資料センター 蔵

理学部卒業生 寄贈

ピッケル 、ヘッド及び石突き:鉄製 、シャフト:木製、ベルト:皮革製
ピック部分刻印: Roman.Willisch Schweiz TASCH/Zermatt
Swiss made H85

300×850×20[mm]

（参考）寄贈者について

関根倫男（せきね みちお） 1946-1992

略歴

1965年　文理学部 自然科学科 入学
1966年　信州大学探検部創設
1970年　文理学部地質学科卒業、理学部地質学専攻研究生
1970年　パプア・ニューギニアの学術調査
1992年　ネパールへの航空機事故にて亡くなる（46歳）

『山なみ帖』「山の道具今昔」より

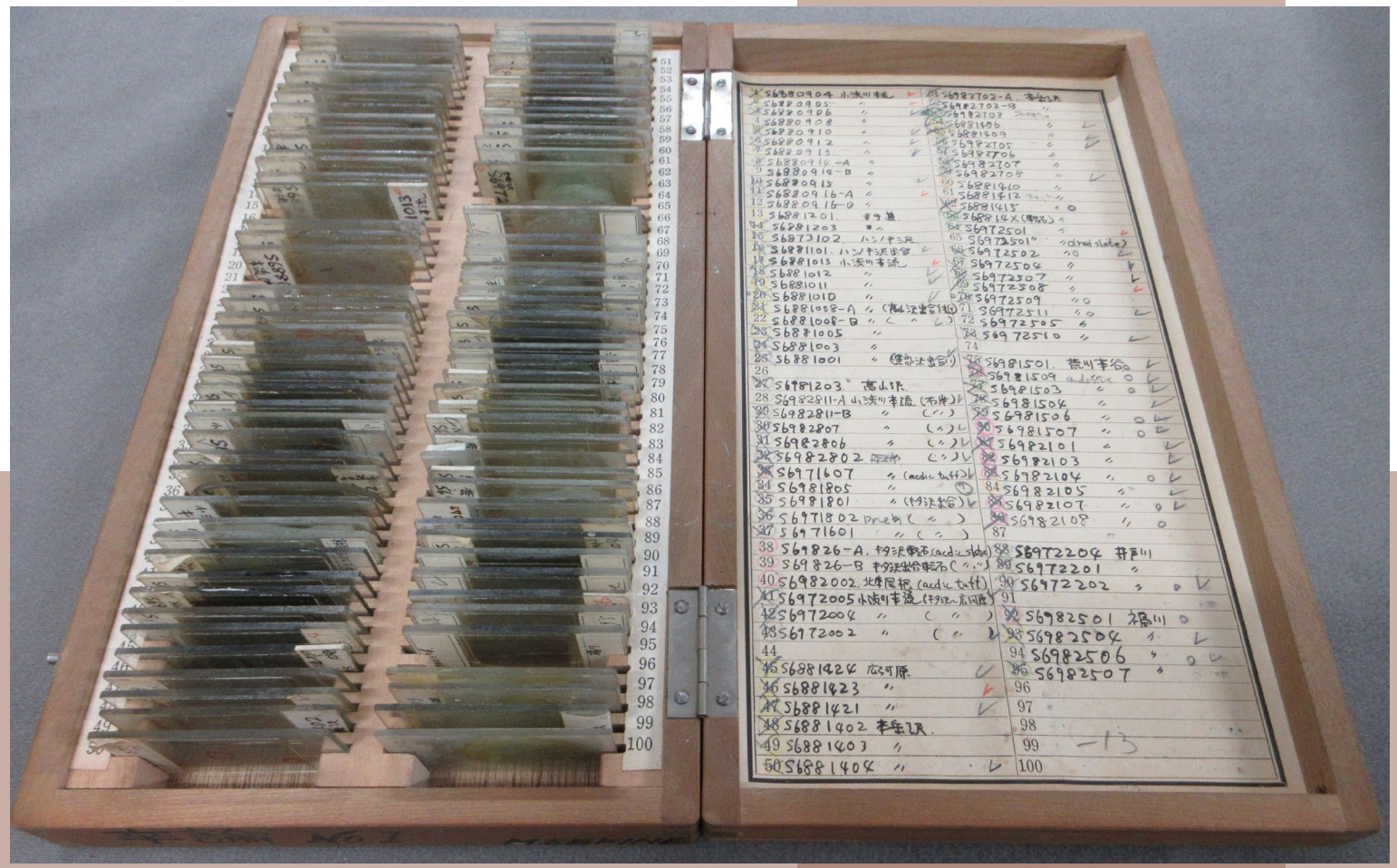
（前略）

山登りに若い情熱を注いでいた私は終戦の前年に旧制松本高校に入学したが、書物によって山の道具に憧れを持っていただけに、山岳部の部屋の一隅に無造作に転がっている数本のピッケルを見出した時の感激を忘れることができない。手に取ってみると書物で見た通りのベントの銘が入っているではないか。ウィリッシュもある、アルマーゲルもある。これが本物のスイスのピッケルなのだと思って力をこめて握りしめた時の感激。先輩達の活躍を示すようにピックは丸くすりへり、ブレードにも疵がついているが、まさしく本物のピッケルである。今日からこのピッケルが使えるのだと大喜びした当時の気持ちは今でもなまなましく蘇ってくる。

（後略）

展示資料No.k3

岩石薄片プレパラート

赤石山地ほか
1965年度卒業論文資料

大学史資料センター蔵